

令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果について

令和3年5月27日(木)に実施した「令和3年度全国学力・学習状況調査」について、かすみがうら市の児童生徒の傾向をお知らせいたします。

【全国学力・学習状況調査の目的】

全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図り、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てます。

【調査の対象】

小学校第6学年及び中学校第3学年の全児童生徒

【調査の内容】

○教科に関する調査

小学校(国語, 算数) 中学校(国語, 数学)

○質問紙調査 学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面などに関する内容



【結果の概要】

各教科及び質問紙調査について、かすみがうら市の結果として特に良かった点と、特に課題が見られた点についてお知らせします。(特に良かった点○, 特に課題が見られた点●)

【国語】

小学校

- 事実と感想, 意見などとの関係を叙述を基に押さえ, 文章全体の構成を捉えて要旨を把握することは, 概ね満足できる状況です。
- 目的に応じて, 文章と図表などを結びつけるなど, 必要な情報を見付け, 論の進め方について考えることは, 概ね満足できる状況です。
- 資料を活用するなど, 自分の考えが伝わるように表現を工夫することに課題が見られます。
- 筋道の通った文章となるように, 文章全体の構成や展開を考えることに課題が見られます。

中学校

- 文脈に即して漢字を正しく読むことは, 概ね満足できる状況です。
- 事実や事柄, 意見や心情が相手に効果的に伝わるように, 説明や具体例を加えたり, 描写を工夫したりして書くことは, 概ね満足できる状況です。
- 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ, 自分のものの見方や考え方を広げることによって課題が見られます。
- 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに, 話や文章の中の言葉の意味について関心をもつことに課題が見られます。

【算数・数学】

小学校

- 除法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知ることや、余りについて知ることが、概ね満足できる状況です。
- 複数の図形を組み合わせた平行四辺形の面積の計算による求め方について式や言葉を用いて記述することは、概ね満足できる状況です。
- 速さなど単位量あたりの大きさの意味及び表し方について理解し、それを求めることに課題が見られます。
- 三角形の底辺や高さの関係の理解を確実にし、三角形の面積を求める公式の理解を深めることに課題が見られます。

中学校

- ヒストグラムや代表値の必要性和意味を理解することは、概ね満足できる状況です。
- 整式の加法、減法及び単項式の乗法、除法の計算をすることは、概ね理解している状況です。
- 扇形の弧の長さや面積並びに基本的な柱体、錐体の表面積と体積を求めることに課題が見られます。
- 平行線や角の性質を理解し、それに基づいて図形の性質を確かめ説明することに課題が見られます。

【質問紙調査】

小学校

- 朝食を毎日食べている、毎日同じ時刻に起きている、友達と協力するのは楽しいと回答した児童が、それぞれ市内全小学6年生の9割を超えました。
- 将来の夢や目標を持っていると回答した児童は全国平均を大きく超えました。
- 国語の思考力、判断力、表現力等の評価のうち、読むことの平均正答率が全国平均を大きく上回りました。
- 難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していると回答した児童は2割未満でした。
- 新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができた、どちらかといえばできたと答えた児童は6割未満でした。

中学校

- 朝食を毎日食べている、毎日同じ時刻に起きている、いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うと回答した生徒が、それぞれ市内全中学3年生の9割を超えました。
- 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができていると解答した生徒は、99%

を超えました。

○数学の評価の観点別平均正答率では、数学的な技能の平均正答率が茨城県平均を大きく上回りました。

●新聞をほとんど読んでいない生徒は9割近くいました。

●新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていた生徒は6割未満でした。

【留意点】

※この調査において測定できるのは学力の特定の一部、学校における教育活動の一側面であり、学力の全てを評価するものではありません。

【まとめ】

※全体的な傾向としては、基礎的・基本的な内容(漢字を書くこと読むこと、計算問題を解くこと)についての知識・理解は概ね満足できる傾向にあります。活用することに課題が見られます。友達の話をしっかり聞こうという姿勢ができていますので、話合いの話題や方向を捉えることはできています。しかし、適切な発言について考えることに課題があることから、何を、どのように書いたり、話したりしているのかだけでなく、なぜそのように書いたり、話したりするとよいのかという目的や理由(根拠)などを考える学習の機会を増やしていくように、今後も各教科の指導の充実を一層図ってまいります。

※小学校は、毎日同じ時間に起きている人ほど、国語と算数の正答率が高い傾向が見られました。中学校は、土曜日や日曜日など学校が休みの日に、勉強をする時間が長い生徒ほど正答率が高い傾向が見られました。また、朝食を毎日食べている生徒、毎日同じ時間に寝たり起きたりしている生徒ほど正答率が高い傾向が見られました。

各ご家庭のご協力が、よい結果につながっています。今後とも、引き続きご家庭でのお声かけ等をよろしくお願いいたします。

